

ダム防災操作効果の公表について

平成30年7月5日
土木建築部河川課

6月30日の梅雨前線降雨および7月3日～4日の台風7号の影響によるダム防災操作の効果についてお知らせします。

1. 防災操作実施ダム概要

ダム名	所在地	河川名	流域面積 (km ²)	総貯水容量 (千m ³)
北川ダム	佐伯市宇目大字南田原	五ヶ瀬川水系北川	178.0	41,000

2. 防災操作日時

① 6月30日 梅雨前線降雨

ダム名	開始	終了
北川ダム	6月30日 11:48	6月30日 16:30

② 7月3日～4日 台風7号

ダム名	開始	終了
北川ダム	7月3日 4:17	7月4日 1:56

3. 防災操作の効果

① 6月30日 梅雨前線降雨

最大流入量 378m³/s のうち 370.2m³/s をダムに貯めました。その結果、下流河川（熊田橋）において、河川水位を約 1.44m低減させたと想定しています。

② 7月3日～4日 台風7号

最大流入量 759m³/s のうち 170.5m³/s をダムに貯めました。その結果、下流河川（熊田橋）において、河川水位を約 0.5m低減させたと想定しています。

詳細は別紙のとおり

【問い合わせ先】

河川課 ダム・海岸班

山田・田川・金森

【電話】097-506-4595(直通)



安心・活力・発展

大分県土木建築部

平成30年6月30日の梅雨前線の影響による 北川ダム防災操作の効果について

平成30年7月5日

【速報推計】

北川ダムでは30日4時から雨が降り始め、30日9時には流域平均で時間雨量40ミリを観測し、その後も降雨量とともに流入量は増加し続け、30日11時48分には流入量が洪水量200m³/sに達し、30日13時30分には最大流入量378m³/sを観測しました。

その後降雨も弱まり、流入量は30日16時30分に洪水量の200m³/sまで減少しました。

総雨量は降り始めの30日4時から30日16時までで、158mmでした。

今回の防災操作により、ダムに370.8m³/sを貯めたことから下流河川(熊田橋)において、河川水位を約1.44m低減させたと想定しています。

※今回は発電放流のみでダムからの放流はありませんでした。

今回はゲートからの放流は
行っておりません。



問い合わせ先

大分県 土木建築部 河川課 ダム・海岸班

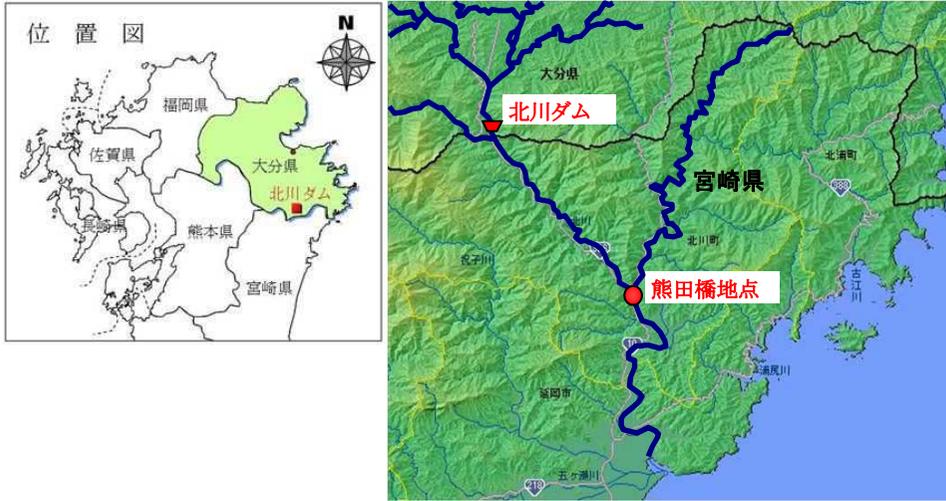
電話 (097)506-4596(直通)

大分県 芹川・北川ダム管理事務所 北川ダム管理支所

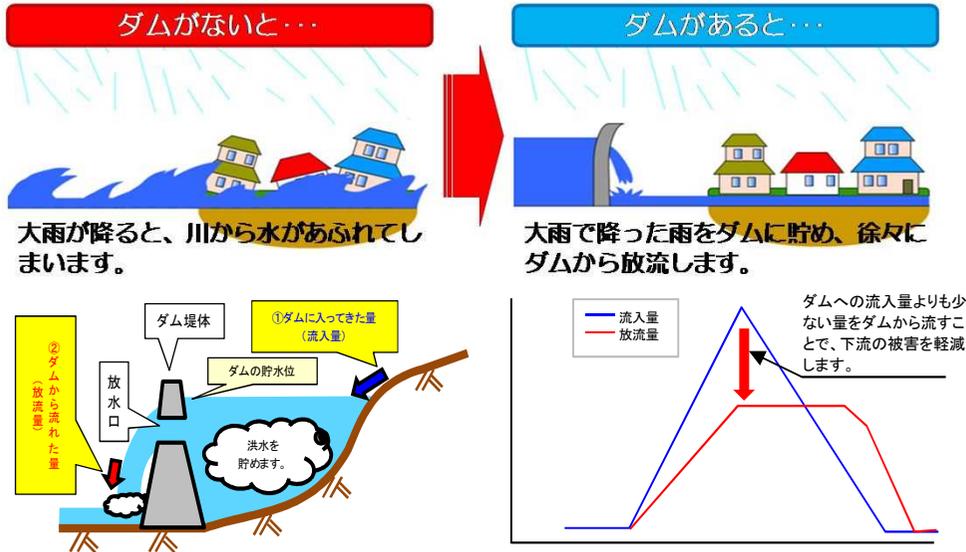
電話 (097)597-6890

平成30年6月30日の梅雨前線の影響による 北川ダム防災操作の効果について

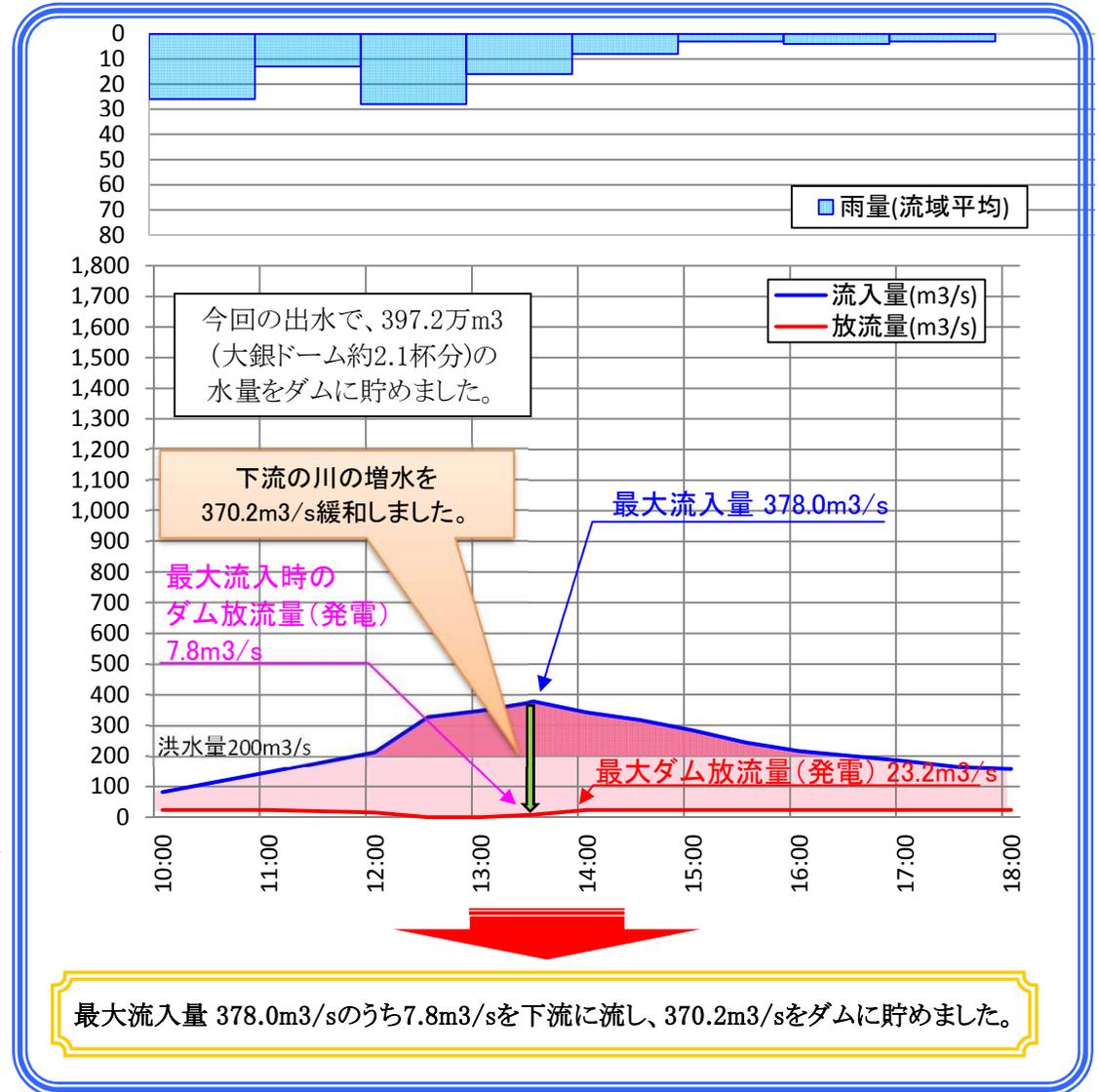
【北川ダム位置図】



【ダムの治水効果】

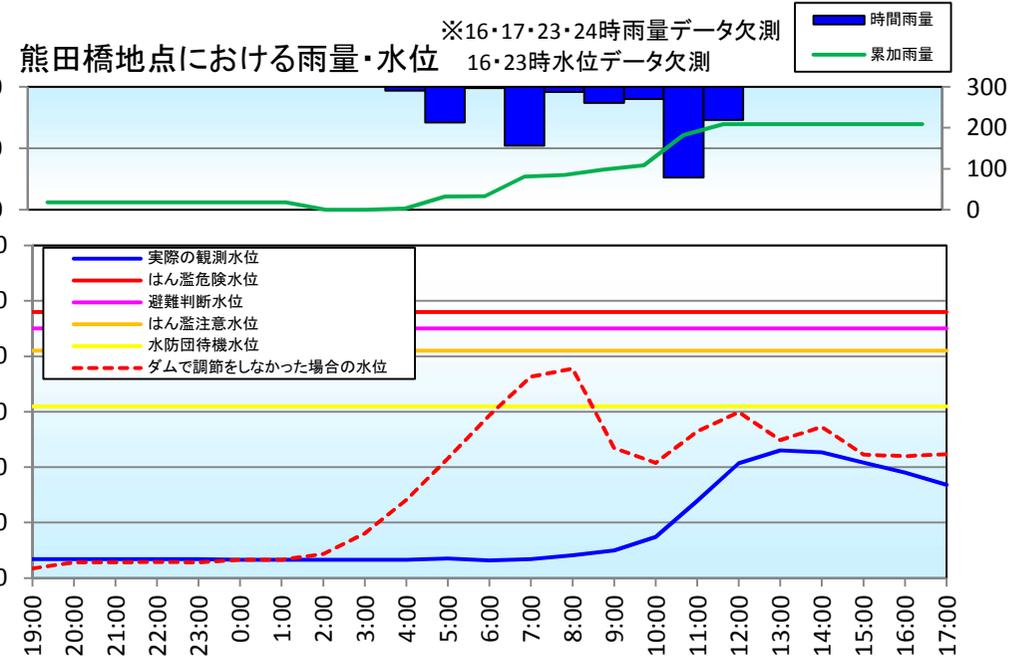
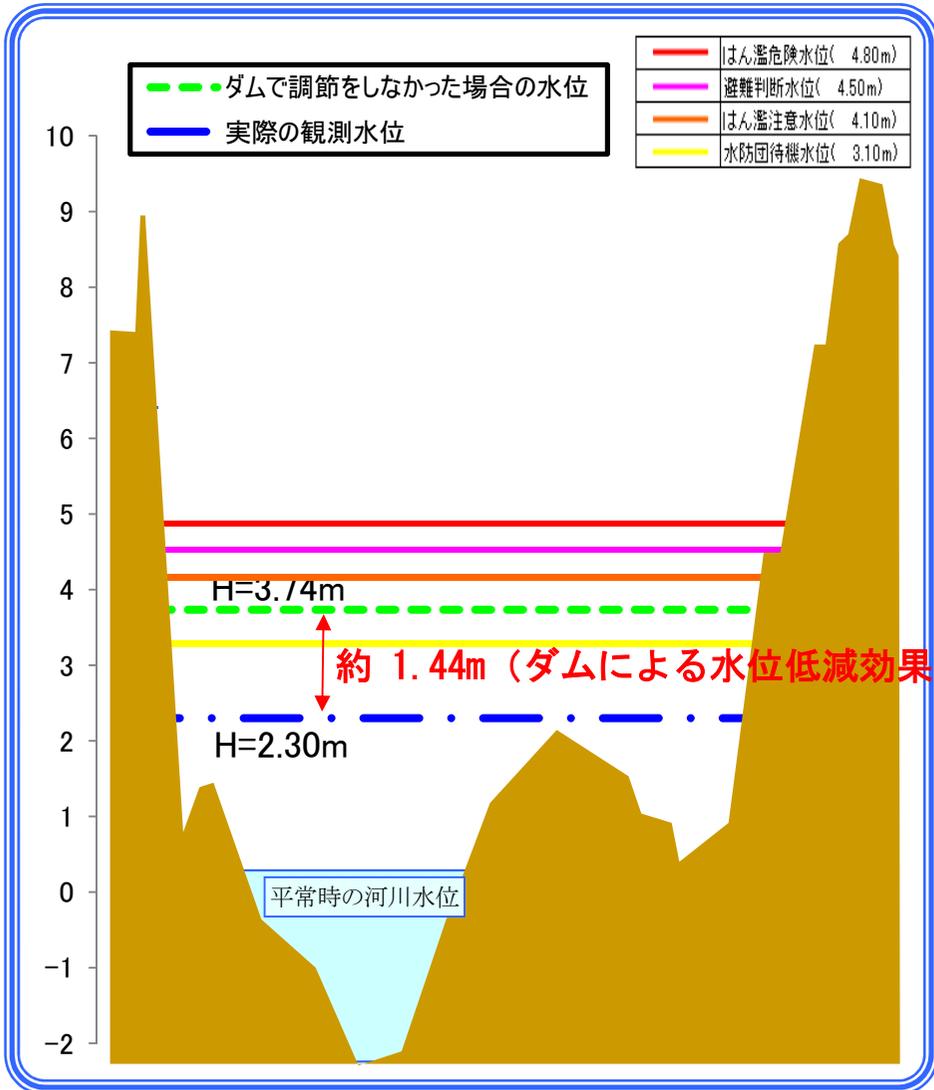


【防災操作実績図(速報値)】



平成30年6月30日の梅雨前線の影響による 北川ダム防災操作の効果について

【 延岡市北川町 熊田橋地点(北川、小川合流点)の河川水位比較 】



(ダムで調節をしなかった場合の水位はおおよその推定です。)



平成30年7月3日～4日の台風7号の影響による 北川ダム防災操作の効果について

平成30年7月5日

【速報推計】

台風7号の影響で7月3日1時より雨脚が強まり、4時17分に流入量が洪水量の200m³/sに達したため、防災操作を開始しました。

その後も降雨と共に流入量は増加を続け、3日16時に今回の最大流入量759m³/sを観測した。

その後は雨量・流入量も減少し、3日21時以降は降雨が観測されなくなり、4日1時56分には洪水量の200m³/sまで減少したので防災操作を終了しました。

6月30日23時～7月3日20時までの総雨量は、280mmでした。

今回の防災操作により、下流河川(熊田橋地点)において、河川水位を約0.5m低減させたと想定しています。



問い合わせ先

大分県 土木建築部 河川課 ダム・海岸班

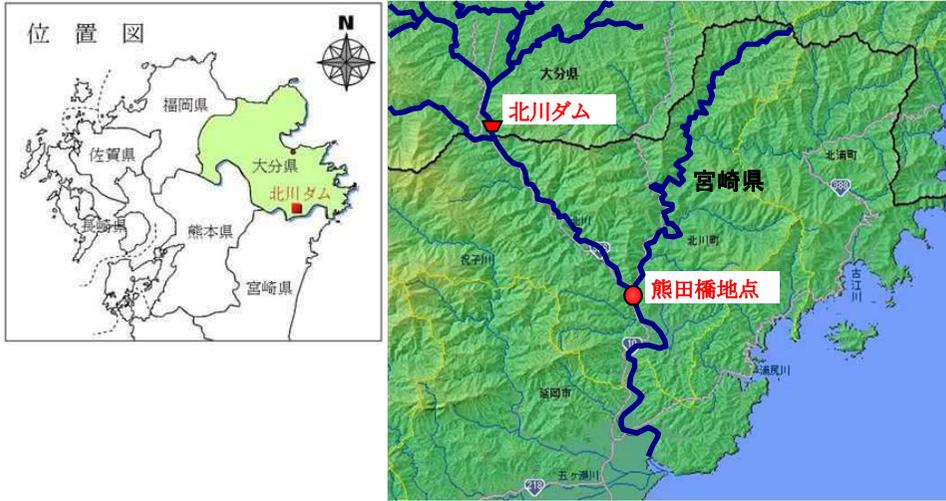
電話 (097)506-4596(直通)

大分県 芹川・北川ダム管理事務所 北川ダム管理支所

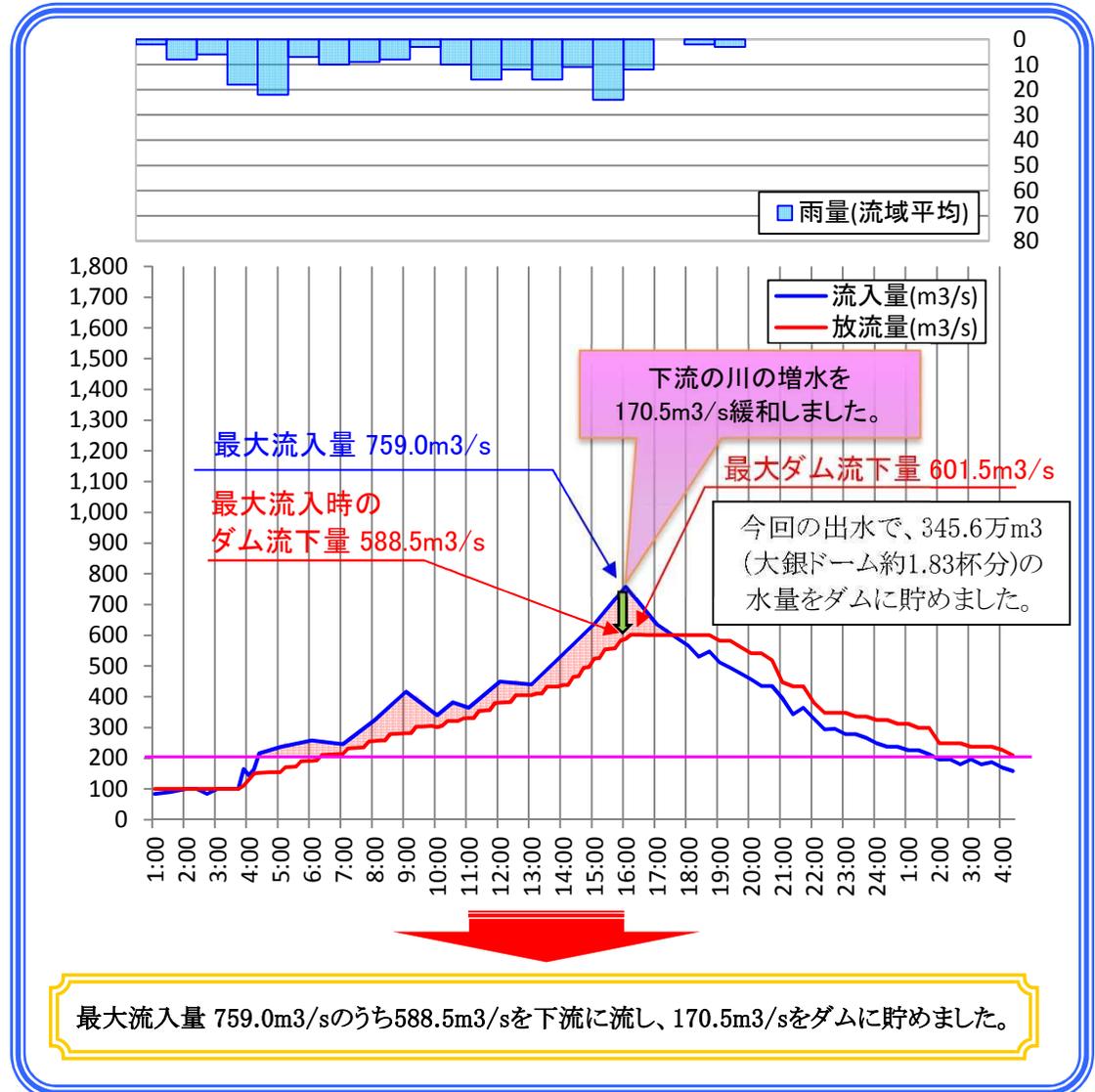
電話 (097)597-6890

平成30年7月3日～4日の台風7号の影響による 北川ダム防災操作の効果について

【北川ダム位置図】



【防災操作実績図(速報値)】



【ダムの治水効果】

